平成29年度鶴岡市立図書館協議会　会議概要

○日　　時　　平成29年10月6日（金）午前10時～

○会　　場　　鶴岡市立図書館本館　講座室

○出席委員　　樋渡美智子委員　金子　洋子委員　宮島　昭子委員　井上　裕子委員
　　大久保紀子委員　伊藤　　博委員　三浦　洋介委員　村山　正憲委員
　　鈴木　　邦委員　小野寺せつ委員　鈴木　和子委員
○欠席委員　　笹山　一夫委員　安藤　幸子委員

○事 務 局　　館　　長：松浦幸子　　主　　査：今野　章
　　図書専門員：舩岡里佳　　図書専門員：佐藤典子

○公開・非公開の別　　公開

○次　　第

１．開　　会　　主　　査

２．委嘱状交付

３．あいさつ　　館　　長

４．図書館協議会委員並びに事務局紹介

５．正副委員長の選出　　委 員 長：樋渡美智子氏
　　副委員長：金子　洋子氏

６．委員長・副委員長あいさつ

７．報告・協議

（１）平成28年度図書館事業について（要覧P.8～21）
　　・主な事業内容や予算執行状況等の報告　　主　　査
　　・子ども読書活動推進計画事業状況の報告　　館　　長

（２）平成29年度図書館重点施策と主要事業について（要覧P22～27）.
　　・予算額や事業内容の概要を説明　　主　　査

（３）その他

８．その他　　山形県図書館研究大会の参加について

９．閉　会　　主　　査

質疑・協議

平成28年度事業について

委　員：資料を見ると、図書館見学に、小学校、高校等、いろんな団体が来ているようだが、幼稚園、保育園は件数から除いているのですか。

事務局：資料には、館内の説明を依頼された団体のみ記載させていただいています。

委　員：小学校のみならず幼稚園や保育園の子どもたちも図書館のお世話になったり、活動していたりするので、そういうことが見えたらいいと思う。

それから見学のみならず、公共施設のマナーを学ぶ、たくさんの本の中から自分の好きな本を選ぶ、やがて一歩進んで、発表会などでいろんな国のことを調べて発表する機会があれば、外国のことをもっと知りたいので、図書館からは外国の本を用意していただいて、そして借りてよみようということになる。こんなふうに積み重ねていくと、幼児の段階でもいろんな形で図書館と関わりあって、小学校につながる学びができるかなと思う。さらに家に帰ってその本を親子でみて、パキスタン料理を一緒に作って食べて、家庭にも広がっているというようなケースもある。そんな形で図書館が大きい力を発揮してくださっている。そういうことも多くの人にわかってもらって、幼稚園は園バスもあり、図書館への来やすさもあると思うので、ぜひ広げていけたらいいと思います。

委　員：小学校図書主任会を図書館で昨年度に開催していただいて大変ありがたく思っている。そのときの図書主任からの声で、読書感想画コンクールの期日の件についてこちらからお願いしたところ、早速改善していただき感想文のコンクールと時期がずれて大変良かったという声が聞こえた。

それから、授業で使う本について、学校図書館１校ですべての参考図書をそろえることが予算的に難しいので、可能な限り市立図書館で用意していただければ広く活用できるのでないかという声が聞かれた。１１月に今年度第２回目の図書主任会を開催していただくが、授業に使う参考図書のリストを昨年度図書館にお渡しているが、リストの本をどの程度そろえることができたのか、教えていただければと思います。

事務局：授業で使う参考図書の国語に関するリストをいただいており、このうち、図書館に所蔵がなく、手にすることができない本も若干あり、現在注文している本もありますが、それ以外は現在揃っています。

また、国語に限らず、各学校で足りないものとか、必要なもののリストをいただいて、団体貸出という形で提供させていただいております。

委　員：小さいお子さんを集めておはなし会をしているが、子どもだけでは来ることができない。特に、幼児はもちろんだが、小学生低学年までは、お父さんやお母さんと一緒に来るので､お父さんやお母さんの意識がないと図書館まで辿りつけない。だから、図書館に来ていただいている親御さんは、ある程度意識があって、自分も本が好きだったり、自分も本を借りたいと思っているような方だと思う。全然図書館に来たことがない方もいるので、そういう方たちも少しは興味を持ってもらいたいと思います。

それから、子どもたちも忙しい。学童に通っている小学生を見ていると、学校に行って、学童に行って、学童にいる間は本を見たりもするが、６時や６時半に家に帰って、明日の準備をして、お風呂に入って、ご飯を食べて、あとは寝なければならないという生活の中で、ゲームもしたいし、テレビも見たいし、そこに本を読むという余地は、今の子たちにはないのでないかと思う。

お父さんお母さんがいつも本を読んでいる方だと、きっとお子さんも自然に読むようになるのだと思うので、お父さんお母さんの意識を本に向けないといけないと思う。どうやって図書館に足を向けていただくかが大事だと思います。

委員長：親御さんの一つの環境づくりもありますね。親も勤務体制がいろいろ変ってきている中で、子どもの読書に付き合うというのも大変なことだと思います。

委　員：家で本を読まないというアンケート結果を見て、以前学校で勤務していた際に学校にやまびこ号が巡回してきて、そこで本を１０冊借りたとしても、家に持ち帰らないということが多かったことを思い出した｡そうすると家では読めないので、こういう結果になるのだと感じた。

温海分館の活動として、毎月、各保育園に本を持っていって貸し出しをしてご覧いただいている。保育園に読み聞かせに行くと、そこの園長先生が図書館から本を借りてとても良かったという話を聞く。保育園に本はあるけれど、毎年新刊を入れる予算はないので、図書館から毎月本を貸していただけるということに非常に感謝していた。図書館が本を揃えて、こんな本がありますよとアピールするのは往路で、そこから利用者が実際本を借りにくるとか、図書館を利用するということは復路だと思う。読み聞かせのときに、いろんな本を紹介しているが、おもしろかったと言われて今度はこんな本もあるからおもしろいよという話をすることで、より図書館に対して関心を持ってもらえればと思っています。

また、地域の図書室を整備して、月に１度おはなし会をしている。夜に開催しているので親御さんも来ていただけるのだが、そこで借りた本はお家に持ち帰ってお家で楽しんでいただけるので、将来的には市立図書館から本をお貸しいただいて、地域の方にも本をご覧いただき、生涯学習の一つとして利用していただきたいと考えています。

委　員：朝日分館をよく利用させていただいていて、数値的には利用数も貸出冊数もそんなに多くはないですが、土日に朝日分館に行ってみると、中高生が勉強している姿を見ることができるので、朝日地域にとって、朝日分館はなくてはならない施設だと感じている。入館者数が少ない、貸出冊数が少ないということだけではないものがあると思うので、ぜひ今後も分館の貸出等、配慮いただき、継続してほしいと感じています。

委　員：こども読書アンケート結果を見てみると、小学２年、５年、中学２年、高校２年とあるが、年が上がるにしたがって、本を読まない割合が上がっている。平均すると、２０．７パーセントで５人に１人は読んでいない。中学３年と高校３年はアンケート対象になっていない。もし対象に含めれば、もっと読まない人の割合は上がるだろう。

本館や分館に来ると、よく小さい子どもへの読み聞かせなどを一生懸命やっているのを見かける。読み聞かせは、小学３年生くらいまでだと思う。そのあと、小学校での朝の読書とか、読書運動などをして、つないでいけるようにしたほうがいいと思う。そういうことがないと、そこの年齢で読書がプツンと切れてしまい、このような結果になってしまう。中学生くらいになるとほとんど読む人がいなくなる。人生の中で、読書の質、量がその時期に抜けてしまう。子どものときに養った読書の心というのが、その年代年代で活かされないのでないか。

今の時代は、子どもはどんな時でも、テレビかゲームをやっている。電車に乗っていてもみんな下向いてゲームをしている。家に帰ってもゲームをしている。こういう時代の中で、読書の意義を気づかせ、それから読書の心をどうやって育てていくか。我々は気にかけて、声を出すということは大事ではないかと常々思っています。

委　員：幼稚園、小学校低学年まではみなさん、読み聞かせに意欲的ですが、やはり高学年になると、スポ少が始まったりしてやることが増えてくると本を読まなくなる時期があって、このアンケート結果につながってきていると思う。

今日、皆さんのお話を聞いて、やはり読書のきっかけ作りが必要だと思った。小学生の高学年くらいから、朝少し早く学校を始めて、５分でも１０分でもいいから読書をする機会を作ってあげてはどうかと思う。何かしら大人から働きかけてあげないといけないと感じる。私たち大人が楽しく豊かな人生を送れるように子供たちを導いていくことを考えていかないといけないと感じました。

委　員:インターネットが普及して図書館の性質が昔とは若干変わってきているのでないかと思う。例えば、木版画のバレンをつくる、補修するのはどうしたらいいかというときは、昔は、図書館にきて、それなりの本を調べないとわからなかった。

今はインターネットで調べられる。そのようなケースで本を読む人は極端に減ってきているのだと思う。学生は、全部インターネットで調べている。地図も要らなくなってきている。そういう時代にきているときに、図書館は変わっていくのだと思うが、事務局ではどのように考えているか。

それから、本の貸出についてであるが、今はインターネットで電子書籍として購入できる。なので、図書館で電子書籍を購入して、それを図書館で貸し出しすることはできないか。そうなれば、一回ずつ図書館に来てどの本があるかと見なくてもよくなる。図書館の本を検索して、これを見たいとなれば、それを自分に送ってもらって読めるようになる。そして一週間で電子書籍は消えるようにすれば著作権の問題もないのでないか。そういう制度が今はないのかもしれないのだが、そのように変わっていく可能性もなくはないと思うが、そういうような考え方は図書館としてあるのかどうか。

事務局：何か調べたいときにインターネットで調べることが増えたのは事実である。この１０年くらいで激変していると思う。

インターネットで検索したときにトップに出てくる内容は、おそらく一番見た人が多い内容だと思う。その内容は、情報として正しいかどうかわからないことでもあるので、子どもたちには、そういうことも教えていきたいと思う。

それから、図書館にブラウジングという考え方があって、その目的の本だけでなく、近くにある本もあわせて見てもらいたいという考えである。例えば、インターネットの辞書で言葉を調べると、その同じ言葉しか出てこないが、辞書で目的の言葉を引くと､その前後に掲載されている言葉もあわせて見ることができる。本も同じで、電子上だとその一冊の本を見ることになるが、図書館だとその本と似たような本も見ることができる。図書館としては、そういうことも伝えていかないといけないと考えている。電子書籍で本を読める時代に変わってきていると感じている中で、図書館にわざわざ来て本を借りる意味はなんだろうと考えたときに、そういう違いがあるからだと思う。

また、図書館での電子書籍の貸出しは、まだ公共図書館では行っていないと思うが、近い将来、そういうことも始まるのかもしれないとは感じている。

若い年代の人たちにとっては、本を買うより電子書籍のほうが早いという声も聞き、時代はどんどん変わっていると実感している。

委　員：メディアのことが学校でもとても問題になっている。子どもたちがずっとスマホでゲームなどをしている。いろんな学校でＰＴＡが中心になって、ノーメディアウィークという運動に取り組んでいる学校が増えてきている。テレビやスマホを見ない時間は何をするかというときに、少しであるが、読書をする子が出てきたという声が聞こえてきているので、その辺りが今後力の入れどころだと感じている。

それから、スポーツをすると本は読まなくなるのかという疑問もあるが、宮里

藍選手のお父さんは、これからプロとしてやっていくためには、心の筋肉の静筋を育てなければいけないと考え、中学校三年間、毎年一年で３００冊以上の本を読み続けたということだった。お父さんの冷静な判断がそのように促したのだろうという内容が新聞に掲載されていた。

今の若いアスリートの人たちは、きっと本を読んでいるのだろうと思う。インタビューをされたときに、今自分が置かれている状況など細かなことを言葉できちんと説明している。あれだけのボキャブラリーがあるのは、きちんと本を読んでいるからこそできることだと思う。スポーツ優秀な方々は、実は本を読んでいるというのは、いろいろ紹介されている。子どもたちにも、スポーツをやる途中でいろいろ迷うことがある、そういうときには、実は本が君たちを救って新たな道を示唆してくれるところがあるということを、我々教員や大人が子どもに知らせていく必要があると思っている。

委　員：言葉を知っているというのは大事だと思う。特に男の子に多いのだが、喧嘩になると、言葉を知らないから、悪い言葉を使って喧嘩になってしまう。もう少し語彙を増やしてあげないといけないと思う。

委　員：　図書館での読み聞かせで、多くの親子に足を運んでもらおうという努力をしているが、なかなか足を運んでもらえなくている。

あるときに若い人たちがたくさん来る「こしゃってマルシェ」という「スローな生活をしよう」という趣旨のイベントに行ったが、若い人たちがたくさん来ていた。ここを使わずにはいられないと思い、今年からそこの小さなコーナーを借りて、そこで読み聞かせをする時間をいただいて、本を並べて、若いお母さんお父さんたちに見てもらおうという努力をしている。

新庄のマルシェに行くと、やはり本のコーナーがあって、お父さんたちが絵本のコーナーのところで子どもにじっくり読んで聞かせていた。そこには小さな棚があって、「あなたの好きな絵本を１冊どうぞ。かわりに読んで楽しかった本を一冊置いていってください。」というコーナーがあった。それを見て、若い人たちの意識が変わっていて、こういったな若い人たちをもっと集めたいと思った。

平成 29 年度事業について

委　員：２８年度の活動を見ると、市の子ども読書活動推進計画を土台にして活動していて、本当に素晴らしいと思う。子どものうちでないと身に付かないということが多々あるので、子どものうちに活字に親しませるということが大事だということが、皆さんのお話を聞いていて、なるほどと思った。

子ども読書活動推進計画の中で今までと変わった取り組みだと思ったのは、一つ目は、幼児とか小学生中心の支援から一歩進んで、中学生とか養護学校などにも頑張っていこうという姿勢が見られたと思う。二つ目は、大人に対しても提携していこうという構えがよく見られて、親に対してや、支援グループ、ボランティアグループに対しての支援などに力を入れていくこともわかる。それから三つ

目に、学校図書館の主任会や保育園の園長会などとの連携が、この計画ににじみ出ていて、図書館の職員の意気込みが伝わってきた。すぐにできることではなくて、少しずつ積み重ねていくということが大事だと思う。

やっぱり語彙力というのは、読書によって培われるものがあって、私が現職にいたころは、読書は、語彙力、想像力、理解力、思考力、感性などを育てるものだという意気込みでやってきたような気がしている。大人もやっぱり語彙力は必要です。図書館では、大人、子供に限らず、読書を通して、社会に順応できる人を育てていかなければならないと改めて感じたところです。

委　員：図書館の事業及び重点施策に関して、図書館の新設について改めて申し上げたいと思う。現在の図書館は、昭和６０年代に建設して５億円ほどかかったと思う。これから新しい図書館を建設しようとしても、経費の面からすると、私はおそらく２０年くらいも後のことになるのでないかと思う。

私は、旅行をすると、旅行先の市の図書館を見て歩くのだが、鶴岡市立図書館のような狭い図書館の市はなかった。まず、当館のように調査読書室の席が４０人ほどという市立図書館はなかった。受験生も勉強するのにいくらかは必要だと思うので、新しい図書館建設の際は、少なくても１００人はあったほうがよいと思う。現在の図書館の事務室や児童室についても狭いし、トイレについては、照明が暗いと思う。

それから、郷土資料館については、年間を通してさまざま展示している。時間をかけて資料を集めて展覧しているのは大変ご苦労だと思うが、それを見に来る人が少ない。それは、お年寄りの時代になっていて、見に行きたいけれど階段を上がっていくのが大変だからだと思う。そういう課題をどうしていくか。施設が変わらないことにはどうしようもないのでないか。

これからの図書館というのは、ただ本を読ませて本を貸すだけではなくて、いろいろな本も含めた DVD や電子図書、そういった機器、また、そういうものを利用できる部屋、椅子、机が多くある、そういった図書館にしていかないといけないのでないか。私は、これからの時代は、図書館は情報センターの役割も担うことになると思う。

経済的に厳しいなかで、図書館の充実に向けてどう対応していくかというのは、一番大きな課題だと思っている。この先それほど長い年月を要せずに、今申し上げたような希望する図書館にしていただければと思っている。

事務局：これで平成２９年度図書館協議会を終了いたします。今日は忙しい中、どうもありがとうございました。